# 一 般 質 問 通 告 一 覧 表

令和８年９月定例会

| 通告順 | 氏　　名／件　名　及　び　要　旨 |
|---|---|
| ５ | （　工藤　秀一　） |

## １．多文化共生社会を築くために

（要旨）安平町の外国人住民は増加を続け、8月末現在25か国２３９名になり人口の約３．３％を占めています。外国人が増えているのは「労働力不足の解消・緩和」（69.0%）。日本人労働者が集まりにくい産業で、外国人を雇っているというのが実態のようです。一部の住民から「文化の違いでトラブルは起きていないのか」といった不安の声が上がる一方、労働者をめぐる制度や現場の実態は十分に知られていないので、外国人の移住増加に伴う課題について伺う。

(1)　教育行政執行方針に社会教育における多文化共生推進方針を策定するとありますが、その進捗について伺う。

(2)　外国人住民状況は5年前の８月末に85名だったのが今年８月末に239名に増加している。労働力不足の解消、人口確保に寄与していると思います。町政執行方針の最重要政策である人口確保対策として外国人も含まれているか伺う。

## ２．観光は地方創生の推進力

（要旨）注目される民間試算として、交通空白の影響について年間約10兆円規模の経済・社会的損失の可能性があると公表されそのうち日常消費の機会損失が約1.2兆円と推計、さらに約2.3兆円規模の観光消費機会の損失につながるとされています。

(1)　先日、早来地区の高齢者の要望から、かしわ会員に声をかけ、循環バスで終点の道の駅まで行き、アーロムワイナリーでワインを試飲して１時間ほど楽しみ、道の駅で１時間ほどランチをして、そのあと買い物をし循環バスで帰るというツアーでしたが、申し込みは多くても数名と予想していたのが17名参加。高齢者は一人では外出できなくても、イベントには参加したいのだと感じました。道の駅のイベントは休日が多いので、休日にバスが運行していれば行きたいのだろうと思いますが、交通空白の影響は大きいと感じますし、イベント時だけの期間限定しても良いので循環バスを利用することが出来ないのか伺いたい。

(2)　菜の花シーズンに道の駅でガイドをしていると、JR で来ている人から食事処に歩いていけるかと聞かれることが多いが土日は循環バスもハイヤーも運行していないのでご案内が出来ない。追分駅から道の駅までバスが運行していると JR 利用者にとって便利だと思いますし、町内の食事処も賑わうと思う。道の駅からは巡回する無料バスがあるので菜の花畑には行けます。車で来ないことで渋滞緩和に繋がるのではないか。繁忙期だけでも循環バスやハイヤーの土日運行をしてはどうかと思いますが如何でしょうか。

(3)　新たなオーバーツーリズム対策があるか伺う。

## ３．交通安全活動について

（要旨）交通安全指導員会の委員数の減少および高齢化により存続が厳しい状況にある。

(1)　全国的にも人材不足が進んでいるようです。交通安全の組織には交通指導員会のほか交通推進委員会や交通安全協会がある。町内でも一つにできないかとの声を聞きます。実際には他自治体で指導員会や安全協会を、防犯協会と協力関係を結ぶなどして事務処理や会計業務などを一つにして役員負担を軽減した自治体もあります。安平町としても一つにしてはどうかと思いますが考えを伺う。

## ４．災害対策について

（要旨）胆振東部地震から８年が過ぎたが、今年も熊本地震や千葉県の豪雨はじめ災害が多発している。安平町も、今まで経験したことがなかったような雷雨に見舞われた。災害時の避難所の整備について問う。

(1)　東日本大震災に伴う避難所生活では妊産婦や乳幼児を抱える母親への細かな配慮が欠けていた課題から、能登半島地震では輪島市が母子専用避難所を設けたことで母子の精神的ケアに貢献した。熊本地震でも母子専用避難所が出来ています。次の災害に備え妊産婦と母子を守る仕組みを安平町としても平時から整えるべきと思いますが、考えを伺う。

(2)　熊本地震では避難所以上に車中泊の避難者が多いと聞きます。自宅前の駐車場なども含め、車中泊をする方たちへの連絡や情報を伝達できる仕組みが必要と思うが考えを伺いたい。